

## 「不正な管理人のたとえ」

ルカ 16 : 1～13

### 1. はじめに

#### (1) 文脈の確認

- ①「後の者が先になり、先の者が後になる」という教えがあった。
- ②失われた羊、失くした銀貨、いなくなった息子、という3つのたとえ話
- ③この箇所では、イエスは弟子たちに教えている。
- ④弟子訓練のためのたとえ話である。

#### (2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 117 管理人についての3つのたとえ話 (16 : 1～17 : 10)

- ①不正な管理人のたとえ (弟子たちに)
- ②パリサイ人たちとの対決
- ③金持ちとラザロの物語 (パリサイ人たちに)
- ④赦しと奉仕に関する教え (弟子たちに)

#### (3) 「不正な管理人のたとえ」は、極めて難解である。

- ①イエスが不正を奨励しているかのように読める。
- ②解釈の鍵は、「不正の富」という言葉にある。
- ③このたとえ話は、「悪事」を用いて「良いこと」を教えているのである。

### 2. アウトライン

- (1) 管理人の不正の発覚 (1～2 節)
- (2) 管理人の悪知恵 (3～7 節)
- (3) 主人の評価 (8 節)
- (4) イエスによる適用 (9～13 節)

### 3. 結論

- (1) 富に関する誤解
- (2) 富に関するバランスある理解
- (3) ふたりの主人

不正な管理人のたとえについて学ぶ。

## I. 管理人の不正の発覚 (1~2節)

### 1. 1節 a

Luk 16:1 イエスは、弟子たちにも、こういう話をされた。

- (1) イエスは、弟子たちに話している。
  - ①これは、弟子訓練のためのたとえ話である。
  - ②聴衆が誰かを判断することが、たとえ話の解釈のために重要である。
- (2) その周りで、パリサイ人たちも聞いている。
  - ①彼らは、イエスの教えをあざ笑う (14節)。

### 2. 1節 b~2節

「ある金持ちにひとりの管理人がいた。この管理人が主人の財産を乱費している、という訴えが出された。

Luk 16:2 主人は、彼を呼んで言った。『おまえについてこんなことを聞いたが、何ということをしてくれたのだ。もう管理を任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい。』

- (1) ある金持ちが、ひとりの管理人を雇っていた。
  - ①管理人とは、現代のファイナンシャルプランナーや管財人に相当する。
  - ②イエス時代、金持ちは資産運用のために管理人を雇うことが一般的だった。
    - \*管理人は、奴隷の場合も、自由人の場合もあった。
  - ③資産は主人のものであり、管理人はその運用を任されているだけである。
- (2) この管理人は、主人の財産を乱費していた。
  - ①放蕩息子が父の遺産を浪費したのと似ている。
  - ②その噂が主人の耳に入った。

### (3) 訳文の比較 (2節)

「おまえについてこんなことを聞いたが、何ということをしてくれたのだ。もう管理を任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい」(新改訳)

「お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない」(新共同訳)

「あなたについて聞いていることがあるが、あれはどうなのか。あなたの会計報告を出しなさい。もう家令をさせて置くわけにはいかないから」(口語訳)

「帳簿をごまかしているそうだな。もっばらのうわさだぞ。なんてことだ。こうなった以上、やめてもらおう。報告書を整理しておくんだな」(リビングバイブル)

(4) 最初主人は管理人のことを、不正直というよりも無責任と考えている。

①それゆえ、解雇する前に、管理人に帳簿を整理する時間を与えた。

## II. 管理人の悪知恵 (3～7 節)

### 1. 3 節

Luk 16:3 管理人は心の中で言った。『主人にこの管理の仕事を取り上げられるが、さてどうしよう。土を掘るには力がないし、物ごいをするのは恥ずかしいし。』

(1) 管理人の頭は急速に回転した。

①土掘りは、奴隷か、それ以外に能力のない者の仕事である。

②物ごいは、不名誉な職業である。

### 2. 4～6 節

Luk 16:4 ああ、わかった。こうしよう。こうしておけば、いつ管理の仕事をやめさせられても、人がその家に私を迎えてくれるだろう。』

Luk 16:5 そこで彼は、主人の債務者たちをひとりひとり呼んで、まず最初の者に、『私の主人に、いくら借りがありますか』と言うと、

Luk 16:6 その人は、『油百バテ』と言った。すると彼は、『さあ、あなたの証文だ。すぐにすわって五十と書きなさい』と言った。

(1) 主人の債務者たちとは、小作農であろう。

①主人に収穫量の中からある歩合を払うことになっている。

②収穫期までは、支払う必要はない。

③管理人は、負債を減らしてやれば将来自分を雇ってくれるだろうと考えた。

(2) 最初の者

①油 100 バテ → 50 バテ

②バテとは、「娘」。一人の少女が運べる水の量。

③1 バテは、約 8.5 ガロン (約 32 リットル)

④100 バテは、約 3,200 リットル

⑤オリーブの木 150 本分 (1000 デナリに相当する)

⑥この人は、現代の貨幣価値で約 500 万円免除された。

### 3. 7 節

Luk 16:7 それから、別の者に、『さて、あなたは、いくら借りがありますか』と言うと、『小麦百コル』と言った。彼は、『さあ、あなたの証文だ。八十と書きなさい』と言った。

(1) 別の人

- ①小麦 100 コル → 80 コル
  - ②100 コルは、100 エーカーの収穫量 (2,500 デナリに相当する)
  - ③この人もまた、約500万円免除された。
  - ④免除された割合は異なるが、ほぼ同額が免除されたことになる。
- (2) 両者ともに、かなり裕福な人である。
- ①それゆえ、将来雇ってもらえる可能性がある。
- (3) この管理人には知恵がある。
- ①自分が手を染めるのではなく、負債者に修正させている。  
\*負債者に罪を犯させている。
  - ②書類上の変更なので、発覚の可能性がより低い。
  - ③当時、干ばつの時には負債を減額し、名声を得る人が多くいた。
  - ④もし主人が免除を取り消せば、面目を失くす可能性がある。
  - ⑤古代世界では、奴隷が主人を出し抜くという物語が流布していた。

### III. 主人の評価 (8節)

#### 1. 8節

**Luk 16:8 この世の子らは、自分たちの世のことについては、光の子らよりも抜けめがないものなので、主人は、不正な管理人がこうも抜けめなくやったのをほめた。**

- (1) 主人は、不正をほめたのではない。
  - ①これは、悪い事を用いた良い教えである。
- (2) 未信者（この世の子ら）と信者（光の子ら）との対比がある。
  - ①主人は、管理人が抜け目なくやったことをほめたのである。
  - ②この管理人は、物質を用いて、自分の将来の備えをしたのである。

### IV. イエスによる適用 (9～13節)

#### 1. 9節

**Luk 16:9 そこで、わたしはあなたがたに言いますが、不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなったとき、彼らはあなたがたを、永遠の住まいに迎えるのです。**

- (1) 地上の富を、魂を勝ち取るために使用すべきである。
  - ①「不正の富」(unrighteous mammon) とは、この世の富のことである。

\*これは、ラビ用語である。

②「富がなくなったとき」(when you fail)とは、死んだ時という意味である。

\*ギリシア語の「エクレイポウ」である。

③地上の富を用いて伝道したなら、天で迎えてくれる人が出る。

\*富の使用によって天に入れるという意味ではない。

## 2. 10～12節

Luk 16:10 小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。

Luk 16:11 ですから、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まことの富を任せるでしょう。

Luk 16:12 また、あなたがたが他人のものに忠実でなかったら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。

### (1) 小さい事

①地上の富のことである。

②不正の富のことである。

③他人のもののことである(富は神のもの)。

### (2) 大きい事

①永遠に価値あるもの(霊的財産)である。

②まことの富のことである。

③自分が所有できるもののことである(永遠の命は自分のもの)。

### (3) 小さい事に忠実な人に、大きい事が委ねられる。

## 3. 13節

Luk 16:13 しもべは、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、または一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」

### (1) ふたりの主人に仕えることはできない。

①神に仕えるか。

②富(マモン)(アラム語)に仕えるか

結論：

### 1. 富に関する誤解

#### (1) パリサイ人たちの教え

①神は愛する人を富ませる。

②富は、神に愛されている証拠である。

#### (2) 今日の「繁栄の神学」も、同じ教理的過ちを犯している。

①信仰によって、健康、富、成功などが手に入るという教えである。

②人格の完成については、ほとんど取り上げない。

### 2. 富に関するバランスのある理解

#### (1) 地上の富を軽視するのは間違っている。

①光の子らは、この世の子ら以上に、富の管理についてたけている必要がある。

②神がすべて与えてくださると言っても、無責任になるのはよくない。

#### (2) 地上の富を重視し過ぎるのも間違っている。

①富は、「まことの富」を得るために用いるべきである。

②「まことの富」とは、救いであり、主イエスとの関係である。

③御国の拡大のためにお金を使う人は、幸いである。

### 3. ふたりの主人

(1) 奴隷がふたりの主人を持てば、矛盾した命令が来て、働くことができなくなる。

(2) 光の子らはマモンに仕えるのではなく、マモンを利用して神に仕えるべきである。

#### (3) 1テモ6:9~10

「金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました」

(例話) アフリカから帰国した宣教師：出迎える人がいない。